

会社概要・株式の状況 (2025年9月30日現在)

商号	フィンテック グローバル株式会社
設立	1994年12月7日
資本金	53億7,333万6,398円
連結従業員数	220名(臨時従業員は含まず)
連結子会社数	21社
発行済株式の総数	201,321,700株(自己株式 9,026,320株を含む)
株主数	27,529名

役員 (2025年12月19日現在)

代表取締役社長	玉井 信光
取締役副社長	千田 高
取締役	吉岡 尚子 木村 喬
社外取締役	野崎 篤彦 (常勤監査等委員) 鈴木 健次郎 (監査等委員) 大山 亨 (監査等委員)

株主メモ

事業年度	10月1日～翌年9月30日
定時株主総会	12月
基準日	9月30日
中間配当基準日	3月31日
上場証券取引所	東京証券取引所 スタンダード市場(証券コード：8789)
公告の方法	電子公告により行います。ただし、やむを得ない事由により電子公告を行うことができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
公告掲載URL	https://www.fgi.co.jp/announcement/
株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問い合わせ先	0120-782-031(フリーダイヤル) 受付時間 9:00～17:00(土・日・祝日及び12/31～1/3を除く)

フィンテック グローバル株式会社

FGI

フィンテック グローバル株式会社

FinTech Global Incorporated

The firm of innovative financing

第31期 事業報告書
2024.10.1～2025.9.30

<https://www.fgi.co.jp/>

本社 〒141-0021 東京都品川区上大崎三丁目1番1号
目黒セントラルスクエア15F

大阪支店 〒541-0042 大阪府大阪市中央区今橋三丁目2番20号
洪庵日生ビル1階



証券コード：8789

5期連続の増収増益を達成、増配と自己株式取得で株主還元を強化。 地域社会に必要とされる投資銀行として、更なる飛躍を目指します。

2025年9月期は、投資銀行事業の成長が続き5期連続の増収増益となりました。投資銀行事業では、事業承継案件へのプライベートエクイティ (PE) 投資が好調に推移したほか、航空機リース及びトラックオペレーティングリースが新たな成長ドライバーとして収益に貢献し、不動産小口化商品も拡大基調に入りました。エンタテインメント・サービス事業は、料金改定による来園者数の増加に伴う増収に加え、原価低減と固定費削減も進んだことで、セグメント損益は黒字化しました。

この結果、売上高は前期比4.5%増の14,432百万円、売上総利益は前期比20.6%増の8,869百万円、営業利益は前期比32.5%増の3,406百万円となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は、新規プロジェクトに関連する貸倒損失485百万円を計上したものの、前期比26.6%増の2,121百万円となりました。当社が重視する指標であるROEは、前期比2.0ポイント上昇して20.8%となり、目標とする20%台に到達しました。

株主の皆様への利益還元につきましては、1.5円の増配となる1株当たり3円の期末配当を実施しました。また当期に自己株式を総額528百万円で取得した結果、総還元性向は52.1%となりました。

2026年9月期につきましては、主力の事業承継案件へのPE投資が好調を維持するとともに、航空機リース及びトラックオペレーティングリースが伸長することにより、増収を見込んでいます。販売費及び一般管理費は、

2025年4月の給与見直し、業容拡大のための人員増強、オフィス増床などにより増加しますが、増収が費用増を吸収することで、各段階利益は増益を見込んでいます。この結果、6期連続の増収増益となる見込みであり、期末配当は2円増配の5円を予定しています。

中長期的展望として、当社グループは地域との連携により見出されたインフラ、電力、エネルギー、事業承継などの地域プロジェクトに対し、地域金融機関と協働して組成するファンド基金から資金を供給し、地域の持続的成長に寄与することを構想しています。また、セキュリティトークンを活用し、投資家市場からの資金を地域プロジェクトへ円滑に供給する仕組みの導入も検討してまいります。これらの取り組みにより、当社グループは地域社会に必要とされる投資銀行として、更なる飛躍を遂げたいと考えております。

継続的な株主価値向上に向けて、役職員一同、鋭意努力を重ねてまいりますので、何卒一層のご支援を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

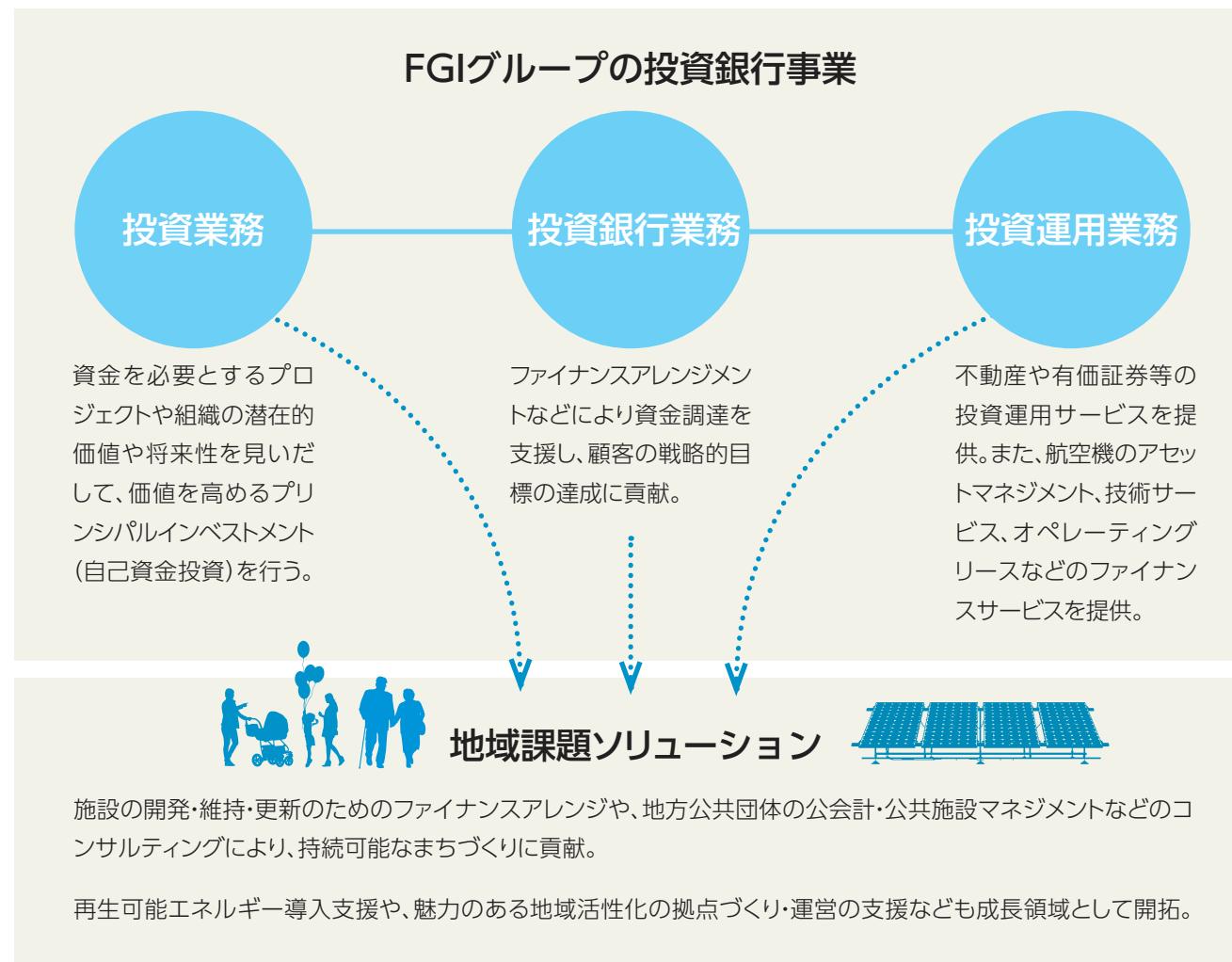
2025年12月
代表取締役社長

玉井 信光



フィンテック グローバル (FGI) は、ブティック型投資銀行*として、 企業や社会の課題解決に貢献しています。

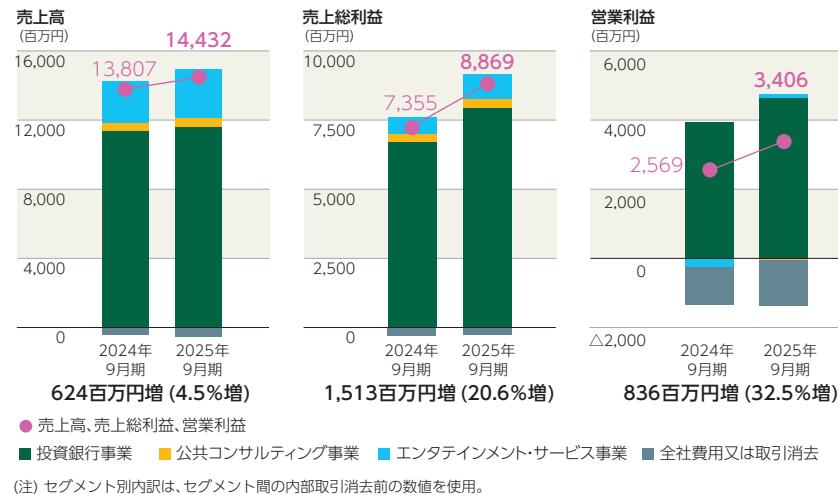
*大規模で広範な事業を展開する大手投資銀行の業務の一部を、小規模かつ専門的に展開する投資銀行を「ブティック型投資銀行」といいます。



5期連続の増収増益

●事業承継案件へのプライベートエクイティ(PE)投資やトラックオペリースの好調により、増収増益。

(単位:百万円)	2024年 9月期	2025年 9月期	増減率
売上高	13,807	14,432	+ 4.5%
売上総利益	7,355	8,869	+20.6%
営業利益	2,569	3,406	+32.5%
経常利益	2,461	3,242	+31.7%
親会社株主に 帰属する当期純利益	1,675	2,121	+26.6%
償却前営業利益	3,038	3,913	+28.8%
1株当たり 当期純利益(円)	8.41	10.91	—
ROE	18.8%	20.8%	—



償却前営業利益 = 営業利益 + 売上原価 - 販管費に含まれる減価償却費及びのれん償却費

投資銀行事業

PE投資の回収、トラックオペリースの
アレンジが拡大、売上総利益は
18.2%の増益

販管費の増加を吸収し、セグメント利
益は20.6%増益

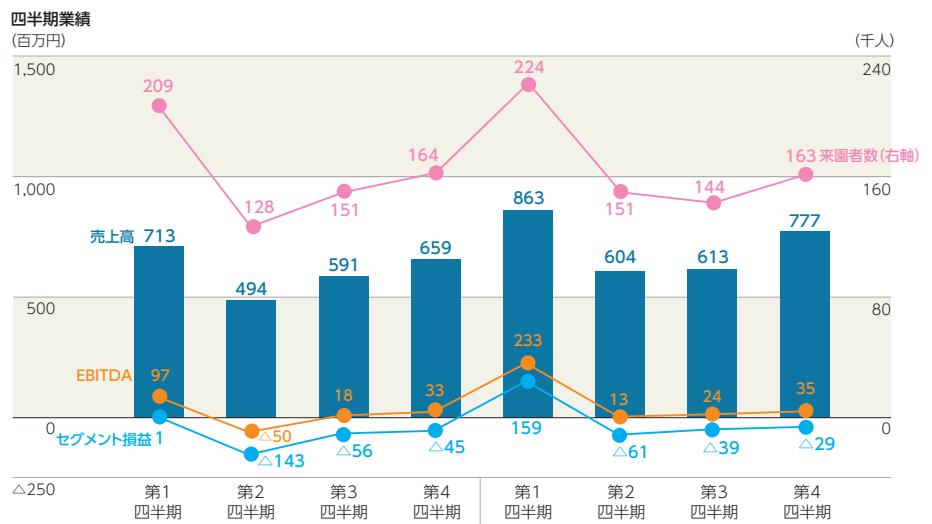


エンタテインメント・サービス事業

来園者数は前期比4.4%増加
し、16.2%の増収

原価低減、販管費削減も進み、
黒字を確保

- 来園者数は、2024年11月のこども1デーパス値下げやコンテンツの充実などにより、前期比4.4%増の68万人。
- こども1デーパス値下げの影響で、チケット・物販の単価は横ばいだが、飲食の単価は向上。
- 業務委託先などの見直しで原価低減。販管費は販促費・広告宣伝費が増加したが、その他の費用削減が進む。
- 売上高は399百万円増(16.2%増)、セグメント損益は273百万円改善し、黒字化。



(注) 1. 来園者数は、メッツアピレッジとムーンパレーパークの合計。
2. セグメント間の内部取引消去前の数値を使用。
3. EBITDAは、セグメント利益に売上原価、販売費及び一般管理費に含まれる減価償却費及びのれん償却費を足し戻して算出。

2026年9月期 連結業績予想

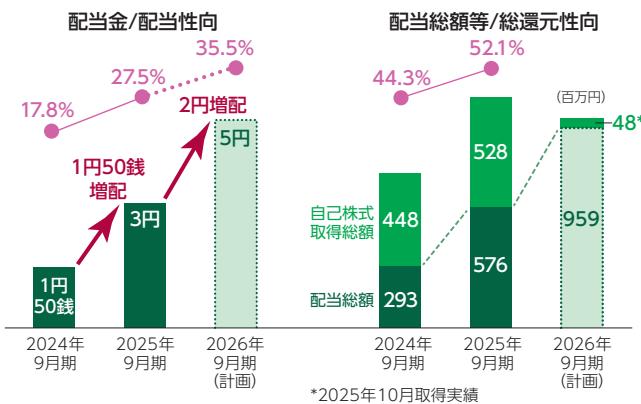
6期連続の増収増益を計画

- 主力の事業承継案件へのPE投資が業績牽引。
- 航空機リース、トラックオペリースの成長が続き、業績伸長。
- 販管費の増加を吸収し、大幅な増益を見込む。

(単位:百万円)	2025年 9月期 実績	2026年 9月期 予想	増減率
売上高	14,432	18,200	+26.1%
営業利益	3,406	4,200	+23.3%
経常利益	3,242	4,000	+23.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,121	2,700	+27.2%
1株当たり当期純利益(円)	10.91	14.07	—

株主還元

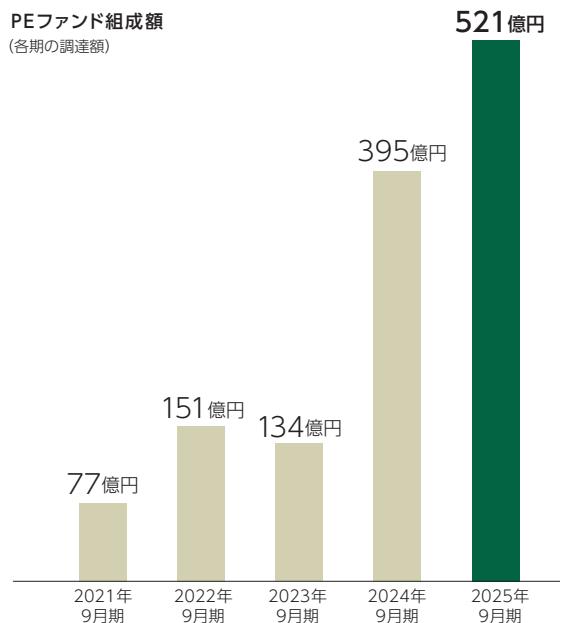
連続増配により、株主還元を強化
積極的な成長投資を推進する一方、株主還元も強化すべく
連続増配を計画。自社株買いも機動的に実施。



投資銀行業務、投資業務

事業承継へのPE投資は前期比32%増 累計組成額は1,300億円に到達

事業承継案件に投資する当社のプライベートエクイティ（PE）ファンド組成額は、前期比32%増の521億円となり、順調に成長しました。今後も、金融機関等との連携を深めることでパイプラインを拡充し、優良な投資機会の創出を推進します。

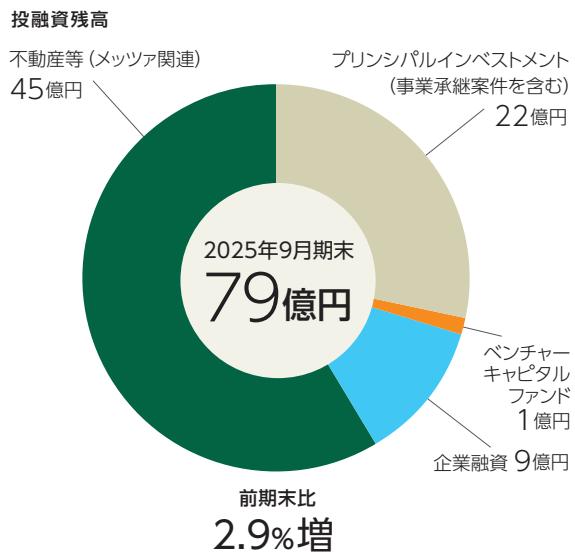


プリンシパルインベストメント

事業承継案件への活発な投融資を展開しています。継続的に優良な新規投資案件を獲得する一方、投資回収も着実に進捗しました。投融資残高は20億円～30億円台で推移しています。

不動産等(メツァ関連)

メツァビレッジでは、2025年3月に現代美術館 ハイパーミュージアム飯能を開設しました。来場者にユニークな体験を提供しています。

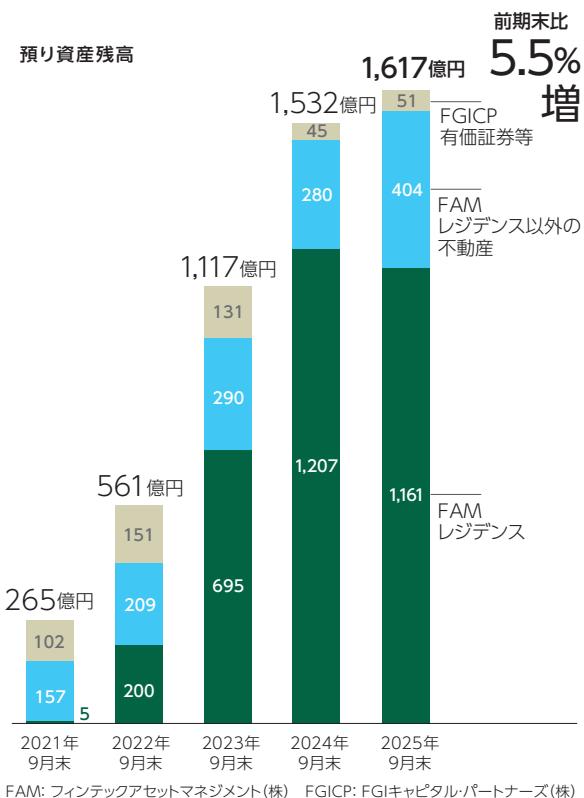


FGI、aviner(株)等の投融資残高
子会社への出資、貸付を含むが、上記の各会社間の出資、貸付は含まず。

投資運用業務

預り資産残高は、宿泊施設・物流施設 投資の新規受託により増加

海外投資家によるレジデンス投資運用受託の増加は落ち着く一方、宿泊施設や物流施設投資の新規受託により、預り資産残高は前期末比5.5%増となりました。



TOPICS

多様な投資家、資金需要者に応える 金融商品を拡充

トラックオペリースへ投資する金融商品販売が好調

運送会社等で増車や財務改善を目的とする中古商用大型車両等のリースバック需要が拡大傾向です。この需要を捉え、当社グループは車両管理事業者が保有する車両を買取り、リースバックするファンドをアレンジして金融商品を組成、投資家に販売する事業が拡大しています。2025年9月期の出資金販売額は5,010百万円(前期比179.9%増)と大きく伸長しました。



不動産小口化商品を組成・販売

不動産小口化商品の市場拡大を背景に、2025年9月期に2案件を組成・販売しました。2025年5月の東洋証券(株)との業務提携により、販売は好調に推移しました。



案件事例:南麻布レジデンシャル

地域課題ソリューション

地域再開発、事業承継

地域再開発や大規模改修プロジェクト、事業承継をファイナンスを通じて支援

再開発等のプロジェクト事例

① 鶴岡プロジェクト

山形県鶴岡市、2017年～



ホテル等の大規模改修のためのファイナンスをアレンジ。アセットマネジメントを受託。

② 稚内駅ビルプロジェクト

北海道稚内市、2015年～

物件を保有するファンドを不動産特定共同事業法スキームへの変更をアレンジした上で、アセットマネジメントを受託。

③ 長岡プロジェクト

新潟県長岡市、2023年～



市街地再開発事業「米百俵プレイス 北館」のアセットマネジメントを受託。

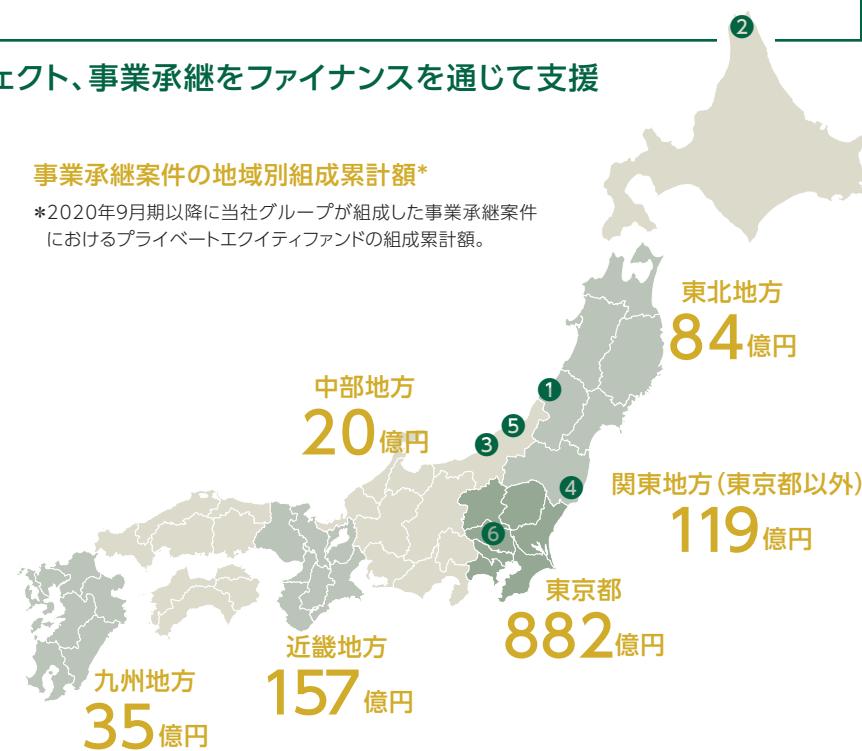
④ 広野プロジェクト

福島県双葉郡広野町、2020年～

福島原発の作業員宿舎として利用されるホテルを保有する特別目的会社のアセットマネジメントを受託。

事業承継案件の地域別組成累計額*

*2020年9月期以降に当社グループが組成した事業承継案件におけるプライベートエクイティファンドの組成累計額。



⑤ 新潟物流施設プロジェクト

新潟県新潟市、2025年～



物流施設・食品工場として開発されたイオン新潟プロセスセンターの証券化をアレンジ。アセットマネジメントを受託。

⑥ ムーミンバレーパークプロジェクト

埼玉県飯能市、2015年～

パーク用地の流動化により、地域金融機関等から63.5億円の開発資金を調達。2019年に開業。

再生可能エネルギー

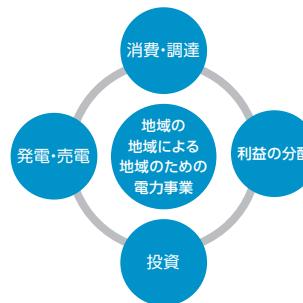
太陽光発電所開発プロジェクトを開始

2025年8月末に当社子会社SPCが太陽光発電所の開発プロジェクトを取得。子会社の㈱パブリック電力に専門人材を配置して運営体制を整備。今後、電気需要者と売電契約を結び、2026年6月から商業運転を開始予定。

東北・北海道10地点で開発 (設備出力合計8.14MW予定)



FGIが目指す エネルギーと投資の地産地消



地域内で資金循環

事業のコンセプトは、エネルギーと投資の地産地消による「発電収益の域内留保」です。域外企業などの投資ではなく域内の投資を活用することで、発電収益を域内に還流させる事業を推進します。

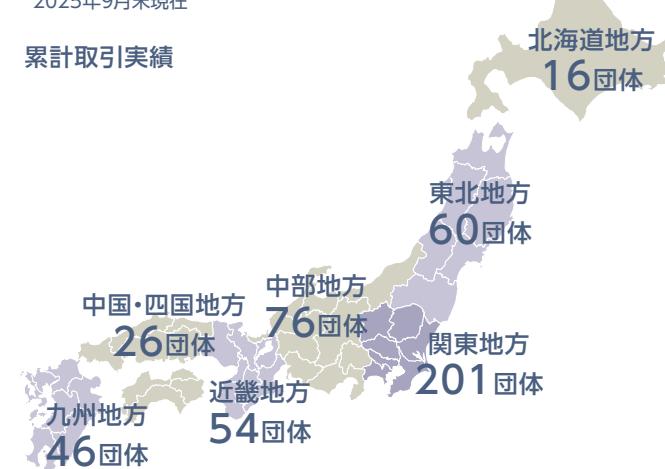
財務書類、公共施設マネジメント

地方公共団体の財務書類作成や公共施設等総合管理計画の策定等を支援

累計取引実績は479団体*

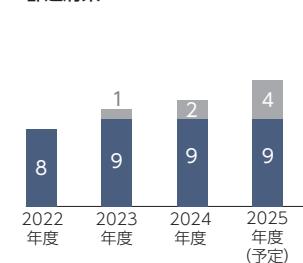
*2025年9月末現在

累計取引実績



大規模自治体から、財務書類作成支援のほか、公共施設マネジメントや行政計画策定の支援の引き合いが増加しています。

都道府県



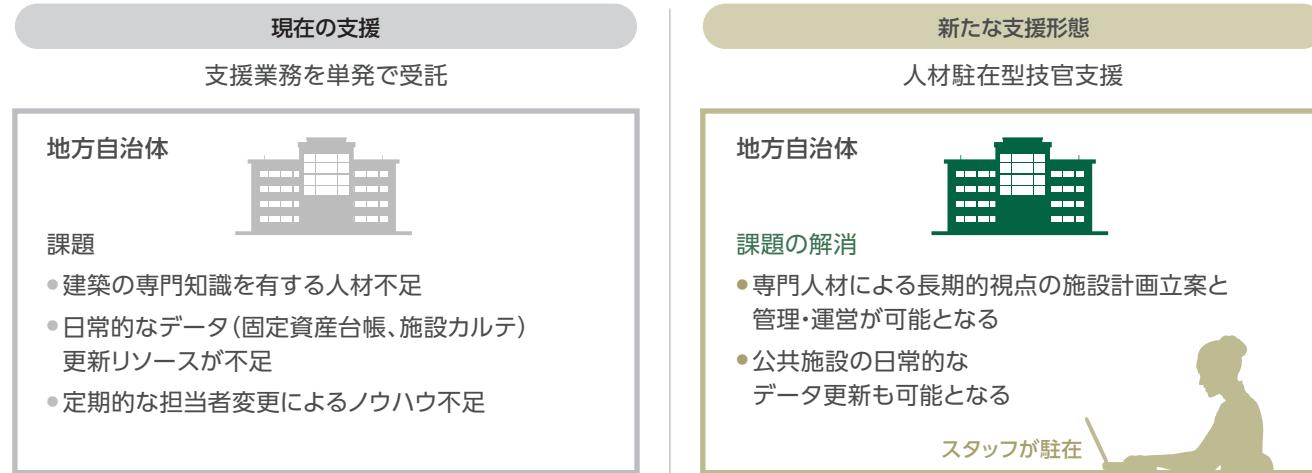
政令指定都市・特別区



アウトソーシング受託により地方自治体の支援を強化

当社子会社(株)パブリック・マネジメント・コンサルティングが、公会計や公共施設マネジメントなどの分野において専門人材の確保が課題となっている地方自治体から、アウトソーシングの受託を開始します。

公共施設マネジメントの支援(イメージ)



公共施設等総合管理計画や個別施設計画の見直し支援



一級建築士、技術士等が現地で支援



*支援は駐在型に加え、定期訪問やリモートでも行う。

(株)ムーミン物語は自立した企業運営フェーズへ移行

当社はバランスシート改善を検討

ムーミンバレーパークを運営する当社子会社(株)ムーミン物語は、当社やステークホルダーの支援のもと、コロナ禍を乗り越え、業績回復を地域活性化とともに実現しました。

(株)ムーミン物語は次の成長ステージへ
(株)ムーミン物語は、次の成長ステージとして自立した企業運営へ移行します。

財務戦略

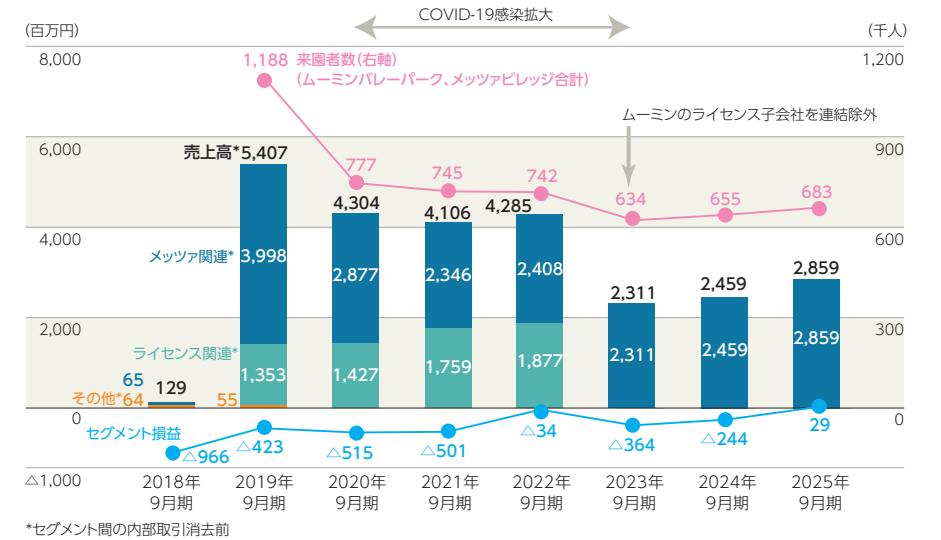
当社は、(株)ムーミン物語とムーミンバレーパークの不動産を保有するSPC連結によるバランスシートへの影響を鑑み、改善を検討します。

今後の方針

当社は、本来の地域プロジェクトのアレンジャー・スポンサーの立場に移行していく方針です。

エンタテインメント・サービス事業の業績推移

●来園者数は、コンテンツ増強、チケット施策等によって2024年9月期に増加に転じました。



メッツアビレッジは、更なる価値向上のため宿泊・温浴施設の導入を本格検討

宿泊施設の設置検討

来場者からリクエストが多い宿泊施設の設置の検討を進めています。

豊かな自然環境というポテンシャルを活かした魅力のある施設にして、新たな顧客層の開拓と、施設全体の価値向上を目指します。

温浴施設の導入も視野に

宿泊施設と相乗効果の高い温浴施設もあわせて検討し、より付加価値の高いリゾート施設を目指します。

セキュリティトークンを活用した証券化を検討

メッツアビレッジは、再開発を通じてさらに魅力を高めるとともに、セキュリティトークンを活用した証券化を検討してまいります。

